

# あがつま



『わたしたちは見えるものではなく  
見えないものに目を注ぎます。  
見えるものは過ぎ去りますが、  
見えないものは永遠に存続するからです』

(コリントの信徒への手紙Ⅱ 4章18節)

## ♪ 賛美歌を歌おう④ 『主われをあいす』

(讚美歌 461番)

アメリカの宣教師たちが各地に派遣されて最初に教えたのがこの賛美歌で、日本でも最初に翻訳された賛美歌の一つです。

原歌詞は、アメリカの作家であったアンナ・バートレット・ワーナー(1827-1915)が、姉のスーザン・ワーナー(1819-1885)の著した小説、「Say and Seal」(1860)に劇中歌として提供した詩です。教会学校の先生に抱かれ、今まさに召されようとしている少年がこの詩を歌うのです。この小説を読んだ音楽家ウィリアム・ブラッドベリー(1816-1868)によってこの詩にメロディーがつけられ、今や世界中で愛唱される賛美歌となりました。

1872年、まだキリシタン禁制の残る明治期の横浜で行われた宣教師会議において、最初の日本語賛美歌として提案された2曲のうちの1つがこの賛美歌でした。また独自の訳詞で歌われているケースも少なくないようです。

日本ではこの曲のメロディーがいくつもの唱歌に用いられ、一般にも親しまれてきました。また、唱歌『シャボン玉』は、『主われをあいす』のメロディーを改変したものと指摘されるほどによく似ています。もしかしたら、作曲者の中山晋平(1887-1957)もこの賛美歌『主われをあいす』を歌っていたのかも知れませんが、皆さんも試しに歌いくらべてみてください。



(稲垣)

